

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①干場弓子著『楽しくなければ仕事じゃない』東洋経済新報社 (2019年11月刊, 278p, 四六判)</p> <p>サブタイトルは『「いまやっていること」がどんどん「好きで得意」になる働き方の教科書』。話題のビジネス書、自己啓発書を相次ぎ発行する出版社の社長を務める著者が、働く若い男女を対象に仕事を楽しむにはどうすればいいかを指南する。著者は「(仕事) 楽しいかどうかを決定するのは、自分がそれをどうとらえるか、であり、その人の選択による」と主張。楽しいことがあるから楽しめるのではなく、なんでも楽しもうと決心して仕事に取り組むべきだと述べる。さらに「プラン通りにいかないから、人生は面白い!」「効率優先を言うのは10年早い」「いまやっている仕事を好きになる」など自らの経験に基づき、仕事を前向きにとらえていくうえで役立つ方法を紹介する。</p>	<p>③佐藤博樹編著『ダイバーシティ経営と人材マネジメント』勁草書房 (2020年2月刊, vii+198p, A5判)</p> <p>さまざまな就業意識や価値観を持った労働者が同じ企業内で働く現在、人材の多様性を重視する「ダイバーシティ経営」の推進が一段と求められている。本書もそうした視点で編集された1冊で、生協総合研究所に設置されたワーク・ライフ・バランス(WLB)研究会での成果がもとになっている。生協では、人手不足と定着率の低さが重要課題となっており、「どのような制度を整備すれば職員が定着するか」「管理職がいかにマネジメントすれば、部下は意欲的に働くか」といった問題の解決について研究を重ねてきた。研究成果では、生協だけにとどまらず、多くの日本企業に共通して、WLBの満足度が上げれば、職員の就業継続意思の向上につながるという結論を導き出した。</p>
<p>②青樹明子著『中国人が上司になる日』日本経済新聞出版社 (2019年11月刊, 253p, 新書判)</p> <p>21世紀は中国の時代と言われて久しい。最近の中国企業の躍進を目にすると、長らく眠っていた巨象が目覚め、世界を席巻しているようだ。本書は、仕事のパートナーとして働くわれわれ日本人に中国人ビジネスマンの特質を解説する。例えば、①中国人エリートは夜中の2時、3時までサービス残業をいとわない②携帯電話の機種で相手の社会的地位を判断する③メンツのためなら仕事も辞める④政治を無視してはなにもできない—など。将来に向けた過酷な競争を勝ち抜いてきた彼らは生半可な頭脳の持ち主ではなく、超優秀な中国人部下をいままで持て余していたところが、今度は上司になった彼らを迎える時代になる。著者の処方せんはただ一つ、相手を知ることだという。</p>	<p>④海老原嗣生著『年金不安の正体』筑摩書房 (2019年11月刊, 204p, 新書判)</p> <p>鋭い雇用ジャーナリストが、問題が横たわる年金制度について読み解き、持論を展開した。保険料の徴収方法について、現在採用している世代間扶養の「賦課方式」ではなく、少子化に強い「積立方式」を求める声があるが、①拠出と給付に40年の時間差が発生する②積立金の運用を40年行う必要がある③高齢化に対して弱い—などのマイナス面があると指摘。世代間の不公平を訴え、少子高齢化による制度崩壊をおおるだけでは本当の問題は解決しないと警鐘を鳴らす。結論として、日本人は誰かを悪者にするのではなく、高齢化社会で必要となる負担から目をそらし続けてきたと解明。世の中には「フリーランチ」などないとし、今後は高負担社会を目指すべきだと力説する。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2020年1月-2月労働図書館受け入れ)

⑤楠木建著『仕事ができる』とはどういうことか?』宝島社(277頁, 四六判)	⑩岩出誠著『労働法実務大系 第2版』民事法研究会(43+848頁, A5判)
⑥竹村之宏著『リーダーシップと突破力』日本生産性本部生産性労働情報センター(211頁, 四六判)	⑪脇田滋ほか編著『韓国労働法の展開』旬報社(xvi+278頁, A5判)
⑦勝田吉彰著『途上国』進出の処方箋:医療、メンタルヘルス、感染症対策』経団連出版(206頁, A5判)	⑫帯刀康一著『パワハラ防止の実務対応』労務行政(196頁, A5判)
⑧千葉博監修『入門図解職場のハラスメント』三修社(255頁, A5判)	⑬藤木昌代ほか編著『欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成』白桃書房(xv+352頁, A5判)
⑨梅崎修ほか編著『労働・職場調査ガイドブック』中央経済社(xi+239頁, A5判)	⑭青柳いづみこ著『音楽で生きていく!』アルテスパブリッシング(309頁, 四六判)

### 労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書124,704冊、洋書32,563冊、和洋の製本雑誌26,719冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(244種)、洋雑誌(139種)、紀要(502種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
 開館時間: 9:30 ~ 17:00  
 休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659  
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです  
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

